

## お客さまのために

朝日工業社は、多種多様なニーズを捉えた技術提案、最新技術情報の発信、施工・製造における品質と安全・衛生の確保に取り組み、お客さまに「信頼」と「安心」をお届けしています。

### 当社のファシリティマネジメント(FM)について

#### 当社のファシリティマネジメント(FM)とは

近年、低炭素社会の実現などお客さまの地球環境への関心がますます高まっています。当社は地球環境に責任のある企業として、以前から低炭素化に向けた研究・技術開発を重ねてきました。現在は、その取り組みを強化するとともに、お客さまへFM提案活動を推進しています。FM提案活動は単に省エネルギー化、低コスト化を実現するだけでなく、施設全般および利用環境を総合的かつ統括的に企画、管理、活用することで、お客さまの経営課題の解決にもつながるものと捉えて積極的に取り組みを進めています。

#### 当社の取り組み

当社には認定ファシリティマネジャーの資格取得者が多数在籍し、FMを強化・推進するための全社的な取り組みを進めています。

お客さまに対してより効果的なFM提案を行うことを目的として、技術本部および技術研究所が中心となり、低炭素化技術をはじめとした環境負荷低減システムの開発を積極的に行っています。また、技術系エンジニアリング担当者が各事業店におけるFM提案活動の状況を共有化し、水平展開するとともに、フォローアップを行うことで、提案内容の質の向上と提案活動の活性化につなげています。

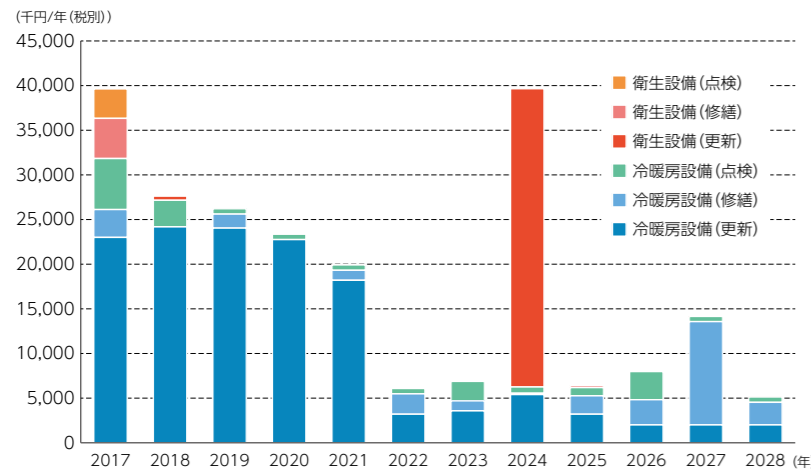
#### 【実例紹介】 福祉施設への当社独自の劣化判断基準によるFM提案

寒冷地における福祉施設へのFM提案の事例を紹介します。

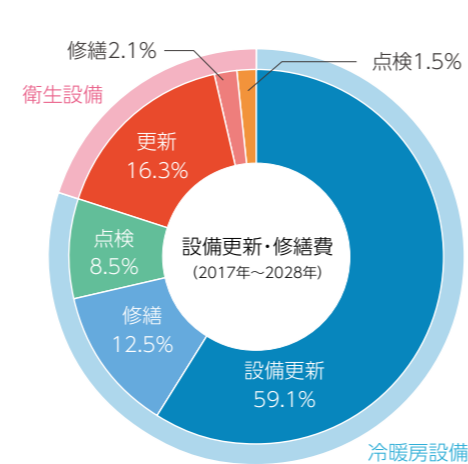
12年前に当社が施工したある施設において、設備の劣化が懸念されていたため、主に冷暖房設備の劣化状況を確認することになりました。劣化の確認に当たっては、当社の独自の劣化判断基準を策定し、その基準により確認した結果、「設備システム全体に機能・性能が軽度劣化、あるいは、一部の部分の機能・性能が劣化」(ランクB)と判断しました。当社では、空調・給排水衛生設備のライフサイクルのすべてをワンストップで行うことを提案していますが、この施設に対しても年度別の点検、修繕、更新の投資計画(図1)とトータルコスト(図2)を提案しました。当社のFM提案がお客さまから信頼をいただき、採用されることになり、現在、省エネルギー化、省コスト化も目指して、設備の更新を行っています。

これからもお客さまと対話を重ね、技術力にさらなる磨きをかけて、ワンストップサービスでお客さまに喜んでいただけるように努めていきます。

(図1) 中長期設備保全にかかわる投資計画(年度別)



(図2) トータルコストの割合

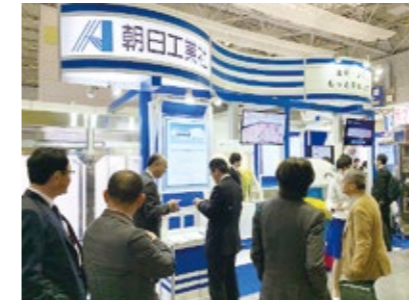


## 当社の最新技術をお客さまに

### 全国各地の展示会

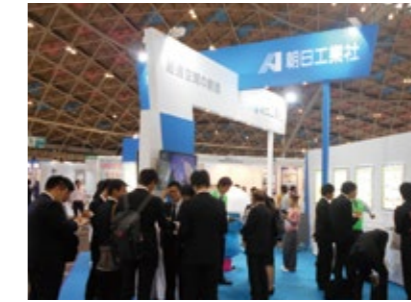
2018年度は全国3カ所の展示会に出展しました。

多くの実績とノウハウを持つ「アグリ分野」や「省エネルギー分野」の技術、「業務用液冷空調システム」やHEPAフィルタの自動リーク検査システム「SR-i」などを展示し、当社における「低炭素社会の実現」への取り組みやソリューション提案を多くの方々へご紹介しました。



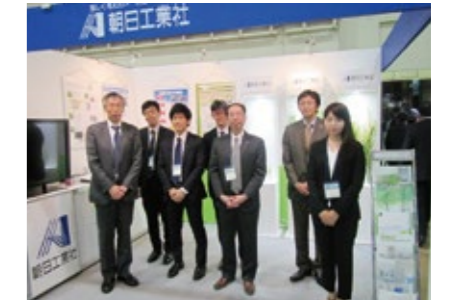
「インターフェックス大阪」

事業店 大阪支社  
会場 インテックス大阪  
主催者 リード エグジビジョン  
ジャパン  
開催日 2019年2月20日～22日  
来場者数 37,760名



「メッセナゴヤ2018」

事業店 名古屋支店  
会場 ポートメッセなごや  
主催者 メッセナゴヤ実行委員会  
(構成団体:愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所)  
開催日 2018年11月7日～10日  
来場者数 61,952名



「ビジネスEXPO」

事業店 北海道支店  
会場 アクセスサッポロ  
主催者 北海道技術・ビジネス交流会実行委員会(北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道商工会議所連合会などで構成)  
開催日 2018年11月8日・9日  
来場者数 21,200名

## TOPICS

### 空気調和・衛生工学会技術振興賞およびカーボンニュートラル賞の受賞

当社が空調・衛生設備の施工を担当した阿南市新庁舎が、第33回空気調和・衛生工学会振興賞「技術振興賞」および第七回カーボンニュートラル賞中国・四国支部奨励賞を受賞しました。

「技術振興賞」は空気調和・衛生工学と工業の振興と発展および新進の研究者・技術者を育成することを目的としたもので、会員企業の技術に関する業績に対して表彰され、またカーボンニュートラル賞はカーボンニュートラル(二酸化炭素の排出と吸収がプラスマイナスゼロ)社会の実現に向けてその意識の浸透と推進活性化を図ることを目的として、優れた業績が表彰されるものです。阿南市新庁舎においては、「建築と一体化した負荷削減」と「自然エネルギー利用と高効率の設備システム導入による徹底したエネルギー有効利用」の2つをコンセプトとした「大規模吹抜け空間とソーラーボイドを有する環境共生建築」が高く評価されました。





## 品質管理

### 設備工事業

取組み項目	活動内容
品質トラブルの未然防止	トラブル未然防止対策の策定と展開、各事業店による品質管理シートとトラブル情報データベースの活用による工事着手前指導
現場業務効率化の推進	タブレット型端末による現場管理、3Dスキャナによる既設建物のCAD化、省力化工法の発案、工事書類データベースの活用、技術文書保管システムの情報蓄積と活用、内勤者で構成したバックオフィスによる現場業務支援、RPAの活用
施工技術力の向上と原価低減策の実践	若手・中堅・管理職級の技術社員研修、電気計装教育、VE教育、CAD研修などの計画的実施、最新技術情報の共有化、各事業店における勉強会
施工パトロールの内容強化	施工パトロールによる品質確保のための指導、合理化策の提案、法令順守の指導、倫理教育、新技術の紹介、トラブル事例教育(2018年度実績:施工パトロール 35現場実施)

#### 品質トラブルの未然防止

本社技術本部は、施工現場の品質トラブル「ゼロ」を目指して活動しています。主な活動としては、品質トラブルの未然防止を目的とした全技術社員への技術情報の定期的配信、情報共有のための全トラブル情報のデータベース化などです。また、過去10年間における品質トラブルの要因分析を行い、トラブル未然防止策を全技術社員へ水平展開しています。全国の施工現場で実施しているパトロールの際には、トラブル事例教育を実施するとともに、品質確保と工程管理の指導を行い、品質意識の向上に努めています。



タブレット型端末導入数  
**633台**  
工事社員への導入率  
**100%**



#### 現場業務効率化の推進

当社では、施工品質の向上を図るため、現場担当者が品質管理に注力できるよう、タブレット型端末、3Dスキャナ、BIM等を活用し、現場業務の効率化と生産性の向上に取り組んでいます。また、内勤者で構成したバックオフィスの構築やRPAの積極的な活用により、現場業務支援の体制を構築しています。さらに、現場管理のための技術情報をデータベース化し、最新情報をいち早く、確実に閲覧できるようにすることで、現場担当者の円滑な業務を支援しています。

### 機器製造販売事業

取組み項目	活動内容
不具合流出ゼロへの取組み	次工程へ不具合を流さないことを目的とした不具合情報管理システムの見直し、不具合発生工程での徹底した原因究明と再発防止の実施
生産性向上への取組み	作業分析ソフト(OTRS:Operation Time Research Software)の活用による作業効率の改善

#### 不具合流出ゼロへの取組み

機器事業部では、新たに不具合情報管理システムの見直しを行い、製品の「不具合流出ゼロ」を究極の目標として、本年度より運用を開始しました。運用にあたっては、不具合が起きた時の原因の深掘り(なぜなぜ分析)を必須対応としており、以前運用していたシステムと比較して、より効果的な再発防止策の策定ができるとともに、不具合原因が複数の工程や協力会社先などに起因する場合も、システム上で一元管理することが可能となりました。

今後は、これまで蓄積された不具合データを有効活用し、不具合の発生ケース毎に傾向分析をすることで、不具合発生の未然防止、「不具合流出ゼロ」の実現を目指していきます。



## 安全衛生活動

### 設備工事業

取組み項目	活動内容
安全衛生パトロールの強化	安全衛生パトロールの計画的実施、施工現場での指導・教育(2018年度実績:安全衛生パトロール 41現場実施。内、他店現場への同伴パトロール10現場実施)
安全研修による安全管理能力の向上	安全教育・研修の実施による各事業店社員の安全管理能力の向上、各種安全教育講座の受講を推奨(2018年度実績:新入社員集合研修時の安全研修、新入社員フォローアップ研修時の安全教育、技術系中堅社員研修時の安全教育、工事系管理職・中堅社員の安全研修、各事業店安全大会での災害集計・統計の発表)
法令順守の指導強化	建設業法、労働安全衛生法等の法令順守徹底に向けた教育・点検・指導、施工現場に関連する環境関連法の順守についての点検・指導
協会の指導・教育の拡充	各種協会主催の会議への支援、安全衛生協会の安全意識の高揚と実行力の養成、協力会社への各種安全教育の実施による安全管理能力の向上

#### 安全衛生パトロールの強化

施工現場での災害事故を未然に防止するため、「安全衛生パトロール」を計画的に実施しています。また、「全国安全週間」と「全国労働衛生週間」には、社長による「安全衛生パトロール」を実施して、安全衛生活動の強化と労働災害防止の徹底を呼びかけています。年間40現場以上のパトロールを目標としており、安全衛生と施工品質の両面から施工現場の指導・教育に努めています。さらに、他店の現場に工事社員を帯同してパトロールを実施するなど、他店での安全衛生に関する取組みや工夫などを自店の活動に反映できるように、社員個人のレベルアップの場としても活用しています。

安全衛生パトロール  
**41**  
現場実施  
2018年度実績



#### 安全研修による安全管理能力の向上

技術系の新入社員や中堅社員向けに安全教育を継続的に実施し、安全衛生に関する知識の向上を図るとともに、安全衛生活動を自ら自覚して行動するように、安全意識の高揚と安全管理能力の向上に努めています。また、全店の工事部門の管理職と中堅社員を対象とした安全研修(1泊2日)を実施し、個々の安全管理能力を高めて、職場での災害の未然防止を図っています。さらに、安全衛生関連情報や災害事例の全社的な情報の共有化を推進し、安全教育のさらなる充実と「災害ゼロ」に取り組んでいます。



### 機器製造販売事業

取組み項目	活動内容
リスクアセスメントの実施・見直し	作業前のリスクアセスメントの実施と適時適切な見直し、工場・現場作業における安全教育の実施、定期的な工場内・現場安全パトロールの実施
サービス・サポートレベルの向上	海外の協力会社も含めたサービス・サポート教育の強化、環境負荷低減に配慮した装置改良

#### リスクアセスメントの実施・見直し

機器事業部では、工場内および現場でのチャンバ組立作業前にリスクアセスメントを実施しています。

作業内容を細分化した後、各作業における危険要因を抽出してそれぞれのリスクを低減させる対策を検討し、その内容を全作業員に周知した上で作業を開始します。また、新型機種のチャンバの立ち上げ時や新たに発生した作業はもちろんのこと、作業場所や作業環境が変わった際に都度リスクアセスメントの内容の見直しを行っています。さらに、大きな変更がない場合でも一年に一回以上は現状に即しているかを見直すことで、安全意識を高めて、常に安全作業が行われるように努めています。

